

2015年7月25日発行

# 地域と協同の 131号

## 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

### 「暮らし」は「平和」であるからこそ 守られているんですね！！



森島 和子

生活協同組合コープみえ理事  
地域と協同の研究センター理事

戦後70年を迎えた今年は、「平和」を考える催しが各地で開かれています。

コープみえでは6月8日に尾鷲を出発した「平和行進」が6月18日に奈良へと引き継がれ、県内の行進が終わりました。私も各地で通し行進者の方々と「平和」を願い、歩かせていただきました。

皆さんの思いは「戦争反対!」。今年はどこでも行進参加者が多く、「平和」を考える人の輪が広がったのではないかと思います。

そこで、「平和」という言葉を改めて考えてみました。

「戦争もなく世の中が穏やかであること」

「争いや心配事もなく穏やかであること」 の意味があります。

前者は、言葉通り戦争のないこと。これは国と国との関係もあり難しい問題です。

後者は、この時代に身近に起こっている悲惨な事件や問題が、関係してくると思います。私たちの日々の「暮らし」が脅かされることです。

「暮らし」を守ることは「平和」に暮らすために大切なことです。それには地域の人たちとのつながりを持つ、必要であれば一緒に行動していくこともあるでしょう。そのために、自分の周りの人との関係が大切になります。今以上の関係づくりが必要になると思いました。

#### CONTENTS

##### 巻頭エッセイ

「暮らし」は「平和」であるからこそ守られているんですね！	1
2015年国際協同組合デー記念行事 開催報告	
愛知「地域における協同組合連携の可能性をさぐる」	
岐阜「協同組合を考えるつどい」	2
三河地域懇談会 学習会 第二弾「福祉って ななに」	3
食と農を考えるーコープあいちの実践事例	
「小規模家族農業を支えるコープの直売所」	4
情報クリップ	5~7
企画案内・書籍案内	8
「おさそい集中月間」6月1日~7月31日 特集	
ぜひ、研究センターへ入会を	別冊

#### 研究センター 7月の活動

3日(金)	国際協同組合デー記念行事(愛知) 協同組合を考えるつどい(岐阜)
4日(土)	「食と農(暮らしと生産)と非営利・協同組合の役割」 公開学習会/第2回理事会
6日(月)	共同購入事業マイスターコース第1回
9日(木)	ものづくりの思いを語る会
10日(金)	岐阜地域懇談会世話人会
16日(木)	組合員理事ゼミナール第6回
17日(金)~18日(土)	協同の未来塾第1回
21日(火)	研究フォーラム職員の仕事を考える
22日(水)	暮らしと生産をつなぐ“もの”づくり準備会
24日(金)	暮らしを語りあう会
25日(土)	プチ・フォーラムINぎふ
26日(日)	生協の(未来の)あり方研究集会
30日(木)	三河地域懇談会 実行委員会

## 2015年 国際協同組合デー記念行事 開催報告

### 愛知での取り組み

文責：伊藤小友美

7月3日（金）、今年で4回目となる国際協同組合デー記念行事を、108名の協同組合関係者（JAグループ愛知・生活協同組合コープあいち・全国大学生協連東海ブロック・南医療生活協同組合・地域と協同の研究センター）が参加し、JAあいちビルで開催しました。テーマは「**地域における協同組合連携の可能性をさぐる**」です。向井清史氏（名古屋市立大学特任教授）の問題提起、JAグループ愛知、コープあいち、南医療生協による実践報告の後、初の試みとして分科会を開催しました。分科会は 1. 食と農（尾張地域） 2. 食と農（三河地域） 3. 次世代につなぐ 4. 福祉・医療・介護 の4つのテーマで行いました。ここでは、向井清史氏の問題提起の概要を報告します。



「協同組合の10年に向けたブループリント」を、多くの方がお持ちだと思います。2012年に、国連の国際協同組合年がありました。そのときに「協同組合はよりよい社会をつくります」というスローガンで運動をしました。その2012年のICA総会で、2020年に向けたビジョンを決定したのですが、それがこのブループリントです。そこでは以下の5つのアジェンダ（行動規範）を決定しました。＜1. 組合員としての参加やガバナンスへの参加を、新たなレベルに引き上げる 2. 協同組合を持続可能性の構築者と位置付ける 3. 協同組合のメッセージを構築し、協同組合のアイデンティティを確立する 4. 協同組合の成長を支援する法的枠組みを確保する 5. 組合員による管理を保障しながら、信頼性のある協働の資本を確保する＞ この中で、もっとも重要なのは、2番目の持続可能性の構築者と位置づけるという点です。その理由が「これらの危機は全て、人類のニーズよりも経済的利益を優先した事業モデルに起因している。」と説明されています。今日、我々が生きている社会の不安定さは、経済優先モデルだからという認識です。それを持続可能な社会につくりかえるために、協同組合は活動しないとイケない。「協同組合は特定の利害関係者の利益を『最大化』するのではなく、さまざまな利害関係者に対する成果を『最適化』することを目指す。」と、協同組合の事業モデルの目指すべき姿が定義されています。重要で、今まで出てきていなかった新しい視点だと思います。持続可能性は、経済的、社会的、環境的の3つの側面があります。協同組合の形態と目的の多様性が理解されていないことが問題です。貢献を表す事例研究と証言を集める必要があります。みんなで持ち寄る必要があります。これは大きな戦略のひとつで、今日はまさにその場です。目標達成手段として、「ビジネスネットワークの強化」と書かれています。障壁を明らかにし、それを取り除かねばなりません。まさに今日の催しは、これに沿ったものです。今の協同組合原則の中にも、協同組合間連携、地域への貢献は入っています。レイドローが言った「西暦2000年の協同組合」、それが今のICA原則の基になっています。その時に協同組合地域社会という言葉初めて定義し、協同組合間連携につながっています。2013年のブループリントは、持続可能性を前面に押し出しているところがレイドローとは違います。レイドローの「西暦2000年の協同組合」は1985年に出されました。しかし、金融不安定な時代をレイドローは知りませんでした。1987年にブラックマンデーがあり、2008年にリーマンショックがあり、今もギリシアの問題があります。10年ごとくらいに大きな変動を経験している不透明な社会です。経済の不安定要因は、箱根の山のマグマのようにたまりつつあります。そういう中で持続性を第一に考えないとイケない。それを共有し、持続的な社会をつくるために協同組合は何ができるか、認識を共有できればと思います。このブループリントを今の協同組合の人は軽視していますが、もっとも重要な文書です。

### 岐阜での取り組み

文責：熊崎辰広

7月3日、ホテルパーク（岐阜市）にて、「協同組合を考える集い」が開かれました。

毎年、国際協同組合デーにちなんで開催されています。主催は「岐阜県協同組合間提携推進協議会」。これには生協をはじめ森林、酪農、農協、経済連の各連合会が参加し、今年で23回目となりました。最初に座長である岐阜大学教授の荒井聡氏から、岐阜における協同組合間の提携活動の歴史をふまえて、いくつかの活動の紹介や今後の課題が示され、さらに今年岐阜大学で開催される協同組合学会への連帯の取り組みが提案されました。

次に、「地域社会における協同組合の果たすべき役割」というテーマで滋賀大学名誉教授の小池恒夫氏による講演がありました。氏はまず、「世界経済の政治的トリレンマ」として、ハイパーグローバルイズム企業、国家主権、民主政治（国民）の三つの結合が崩れ、資本の国際移動や他国籍企業化等、ハイパーグローバルイズム企業の力が大きくなり、国家国民の合意形成が困難になりつつある、という流れが基調としてある、という認識を示されました。その日本での現れとして「農協改革」や「TPP」の問題が緊迫しているが、協同組合の問題認識は弱く、それぞれ「自分の問題として考える」必要を問われました。その一つの活動事例として山形の「置賜自給圏構想」が紹介されました。

次に、各提携組織からそれぞれ事例報告がありました。生協では、八百津町久田見地区でのJAと協同しての買い物支援の取り組みが紹介されました。

## 三河地域懇談会 学習会 第二弾「福祉ってなあに」を開催しました！

文責：伊藤小友美

三河地域懇談会では、「わたしたちのくらしと介護～地域で絆な古い支度を～」をテーマに学習・交流を重ねています。学習会の第二弾を、6月29日（月）にコープあいち豊橋事務所にて10名の参加で開催しました。講師は地域と協同の研究センター理事の橋本吉広さん、テーマは「福祉ってなあに？」とし、テスト問題挑戦も交え、基本的な情勢について学びました。その概要を報告させていただきます。「コープ地域福祉は、生協らしい福祉を追及してほしい」との熱い思いをお聞きし、地域でわたしたちは何をすべきか、さらに学習・交流等を重ねたいと考えています。

### 1. 超高齢少子社会とは

人間社会の歩みを見てみると、森を出てサバンナで暮らすようになったヒトは、2本足で見晴らしのよいところに住むようになりました。医療もなく、「多産多死社会」だったのが、栄養状態の改善・公衆衛生の整備により「多産少死社会」へ移行し、その後社会環境の安定・人生コスト上昇により「少産少死社会」となりました。今後は、超高齢化・晩婚・非婚化により「多死社会」へ向かうと思われまます。定常化に向かうか、消滅するかが問われています。

75歳以上の高齢者数の増加予想は、2042年がピークです。しかし、その後は人口全体が減っていくので、75歳以上の率は2060年に26.9%となります。

ヒトとしての寿命は120歳頃までです。それを妨げる諸要因を除去するのが「福祉」「福祉政策」です。

### 2. 介護保険とは～制度と実際

介護保険は2000年に施行されました。その目的は、第一章総則、第一条に、「加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し（2005年改正）、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。」とあります。

介護保険制度の財源の50%は税金、50%が保険料です。税金の内訳は市町村12.5%、都道府県12.5%、国が25%、保険料の内訳は、65歳以上の人（第1号被保険者）が21%、40歳以上65歳未満の人（第2号被保険者）が29%で、若い人が支えていると言えます。第1号被保険者のうち、要介護（要支援）認定者数は546万人（17.6%）で、その内75歳以上は477万人です。つまり82.4%の人は利用していないということです（平成24年度介護保険事業状況報告年報による）。

70歳未満の97.8%、80～84歳の76.5%が給付を受けておらず、受給しているのは85～89歳で

42.7%、90～94歳では63.8%、95歳以上でも78.4%です。

わが国の社会保障制度は、社会保険方式を採りながら、高齢者医療・介護給付額の5割を公費で賄うなど、公費負担（税財源で賄われる負担）に相当程度依存しています。その結果、近年、高齢者医療・介護給付額の増に伴い、負担額は公費に集中しています。これを賄う財源を確保出来ていないため、給付と負担のバランス（社会保障制度の持続可能性）が損なわれ、将来世代に負担を先送りしています。このことが財政悪化の要因になっています。

サービスとしては、在宅サービス、地域密着型サービス（2005年の法改正で加わった中間のサービス）、施設サービスがあります。在宅サービスには、訪問サービス、通所サービス、短期入所サービス等があり、地域密着型サービスには、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等がありますが、近年複合型に変わってきているのが特徴です。施設サービスには、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設があります。

### 3. 社会保障制度と税の一体改革

社会保障制度改革推進法が平成24年8月に成立しました。第2条では、「年金、医療及び介護においては、社会保険制度を基本とし、国および公共団体の負担は、社会保険料に係る国民の負担の適正化に充てることを基本とすること」と定めています。

「施設」から「地域」へ、「医療」から「介護」へという、将来像に向けての医療・介護昨日再編の方向性イメージが出されています。

### 4. どのように生き抜く／きるか

いま、わたしが考えていることは、「共同体の必要性と協同体の可能性～協同労働の視点から」（『友愛・協同研究会年報』2015）をご覧ください。

協同組合のなかで語られる＜相互自助（mutual self-help）＞の考え方を整理し、そこに友愛にもとづく協同労働を紐帯とした新たな協同体の可能性を提起しています。

## 食と農を考える—コープあいちの実践

# 小規模家族農業が支えるコープの直売所

今年の地域と協同の研究センター総会記念シンポジウムは、「私たちの食と小規模家族農業～家族農業を見直し、地域農業のあり方を考える～」をテーマに開催しました。関わって、生活協同組合コープあいち商品政策室の堤英佑さんに、生協が今取り組んでいる実践についてご寄稿いただきました。

2007年11月14日(水)にコープ大高インター店がオープンしました。その際に何とか新鮮な地場野菜を扱いたいと、JAなごや大高支所と相談をしました。元々、JAなごや大高支所は生協に栽培自慢のブロッコリーを出荷頂いておりつながりがありました。そうしたことから約20名の生産者の皆さんにお集まりいただき生協の直売コーナーに出荷するグループを作って頂きました。これが大高エコ部会です。エコ部会は名前の通り、環境に配慮した農業を実践しています。化学合成農薬や化学肥料を節減し、生協の店舗などから出る生ごみなどをバイオプラザなごやで堆肥化したグリーンサブリを畑に入れ「おかえりやさい」として栽培しています。その他、総合的病害虫管理(IPM)も進め、フェロモントラップなど先進的な農業を行っています。当初は、年間を通して安定的に農産物を出して頂けるのが大変心配でした。しかし、小規模家族農業ならではの良さとして、多品種少量生産、栽培品目の変更など小回りが利くこともあり夏場も含め安定して出荷頂いています。また、早朝に生産者自身が値付けして売り場に陳列し、残品は引き上げるなどを行い、農産担当の職員も日常的に点検するなど鮮度管理、品質管理もうまく回っています。この直売コーナー「おおだかひろば」は2007年に開店してから毎年売上を伸ばし、2014年度では2,359万円に到達しました。平均日商は65,353円で農産売り場の部門トップとなっています。一番出荷の多い人では年間500万円を超える売上があり、既に、生活していける水準に近づいている方もあります。また、毎年、生産者のブロッコリー畑でブロッコリーの側枝刈り交流会を行っています。今年も大盛況で何と350名もの組合員が参加しました。

その他、2012年11月29日(木)に開店した日進店ではJAあいち尾東の生産者でグループをつくり直売コーナー「日進ひろば」を運営して頂いています。売り場としては大高と比べると半分ほどの小さなものですが、年間で1,331万円、日商36,872円と良く売れていま



コープあいち大高店の「おおだかひろば」

(2013年 環境パネルで見学の時の様子)

す。2014年度は前年比126%と大幅に伸ばしています。昨年2014年11月28日(金)にオープンした上社店でもJAあいち尾東の生産者の皆さんにお願いし直売コーナー「とれたて野菜ひろば」を設置しました。ここも大好評で開店からの半年で664万円、日商37,308円と日進店を上回る売上となっています。また、ここに出荷頂いている若い生産者の近藤泰さんと萩野真吾さんは、朝穫イチゴと完熟トマトを共同購入のセンターの名東センターに早朝に持って来て頂き、その日のうちに当日供給でお届けする取り組みを今年の2月に実施し、組合員に大好評でした。またJAあいち尾東とプチヴェールの収穫体験の取り組みを行い、150名ものたくさんの参加がありました。生協の直売コーナーに出して頂いている生産者はやはり高齢者の夫婦でやっている方が多いのですが、JAあいち尾東の萩野真吾さんの様に、元々祖父と母親が農業をやっていて、昨年26歳で新規就農者として農業を始め、生協にも出荷頂いているといった若い方も何人か出てきています。

小規模家族農業で生産された農産物を生産者が見える形で消費者に提供していくことが生協の大きな役割だと思います。

研究フォーラム（パネル）食と農世話人会では、さらに実践事例を学んで継続できる農業を考えていこうと9月2日に三重県の松阪農業公園ベルファームの見学に行くことにしています。関心のある方、ぜひご参加ください。

# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶「わたし」を生きる</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 <b>COMCOM</b> 2015. 7 575</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 「わたし」を生きる 車椅子に乗ったレーサーの”自分“にしかできない挑戦 レーシングドライバー / Piroracing代表 長屋宏和</p> <p>[レポート] 当事者が先頭に立って社会を変える 日本認知症ワーキンググループ 認知症の生きづらさとは？ 日本認知症ワーキンググループ 事務局 水谷佳子さんに聞く</p> <p>[バンビのつぶやき 31] 学童保育で子ども心をリバイバル 店主 中根桂子</p> <p>[現場のひらめき地域のひらめき 第7回] ロボットで人と社会に貢献 湘南ロボケアセンター 株式会社</p> <p>[みんなで健康づくり 第7回] 健康チャレンジ8000人の目標達成 松江保健生協</p> <p>[協同のある風景] 228 「あの世、この世、その世」劇で伝えるお互いさまの助け合い ～家で死ぬということ～ 新居浜医療福祉生協都 生きる (第19回) 隠居して40年、今も現役 写真家 田邊順一</p>	<p>2015年 7月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶戦争への対抗</p> <hr/> <p><b>社会運動</b> 2015. 7 419</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>総特集 戦争への対抗 ー自衛官・市民の命を守る憲法九条</p> <p>ケア 非暴力を学ぶ実践 上野千鶴子</p> <p>この危機に立ち向かうには ー草の根、どぶ板の運動論 辻本清美</p> <p>変わらない日本と変わっていく沖縄 ー「琉球共和社会憲法」は自己決定権の潜在力 中里効</p> <p>日本の滅亡について 崔真硯</p> <p>女性作家たちの声 (第6回) 100年先の未来を決める 辺野古・抵抗の現場から 影山あき子</p> <p>レイシズムと戦争の闇 ー『九月、東京の路上で』 加藤直樹</p> <p>護衛艦「たちかぜ」自殺事件裁判 ー自衛隊の隠ぺい体質と人命軽視の思想 三宅勝久</p> <p>泡の砦 自衛隊文学再論 川村湊</p> <p>軍事化とジェンダー 佐藤文香</p> <p>民間人にも戦争協力を迫る「戦争法案」 ー戦争参加業務を拒否するために 吉田敏浩</p> <p>商品たちの素性 (第6回) 企業の知られていない素顔 中野寿彦子</p> <p>ー武器産業に手を染めている</p> <p>安全保障についての議論を ー対抗的専門家を活用する 小熊英二</p> <p>自衛官と対話するヨコスカ平和船団 ー順法闘争の徹底化という闘い方 編集部</p> <p>キャンプ座間を抱える町で戦争反対を ー足元の基地問題に向きあう行動家 バスストップから基地ストップの会</p> <p>オスプレイの横田基地配備に反対 ー周辺自治体と市民の取り組み 福本道夫</p> <p>世界の多彩な協同組合 (第6回) 語り継ぐ組合員の戦争体験 坪井照子 布施杏子</p> <p>平和と「自分はどう生きるのか？」の問い ー近代150年の歴史と生活クラブ 岩根邦雄</p> <p>祖父と曾祖父の話 (第5回) 津島祐子</p> <p>メディア遊動日記 (第5回) 「主権快復の日」と「屈辱の日」の断層 青木 理</p>	<p>2015年 7月 B5版 126頁 定価700円</p>

	<p>「外圧に抗する快感」を生きる社会                  その四 歴史を過去のことにした報い                  アメリカのユートピア フレデリック・ジェイムソン (訳 田尻芳樹)                  訳者 あとがき 田尻芳樹                  柄谷行人インタビュー 後編 聞き手 加藤好一                  神の国・超自我・非戦について</p>	
<p>▶ 国産農畜産物の輸出戦略</p> <hr/> <p>月刊 J A                  2015. 7                  725</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>特集 国産農畜産物の輸出戦略</b>                  農林水産物・食品輸出額1兆円の目標実践に向けて                  独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)農林水産・食品部農林産品支援課                  日本の食材を世界に！ ～現場から見る輸出戦略  <b>【和食の「強み」を世界に広めよう】</b>                  徳岡邦夫 (京都吉兆三代目総料理長 Japan Celebrity Chef発起人)  <b>【JA全農による輸出推進の具体策と展開】</b>                  JA全農総合企画部事業開発課</p> <p>・地方紙ニュース 第52回                  清酒発祥の地の胎動 松岡智 (奈良新聞社)</p> <p>オピニオンリーダーに聞く <b>森永卓郎</b></p> <p>・JAトップインタビュー 合併を契機にJAの真価発揮へ                  三重県JAみえきた 代表理事組合長 小川英雄</p> <p>・展望 JAの進むべき道 今こそ原点を見つめる「教育」を                  加賀尚彦 (JA 全中 常務理事)</p> <p>ミラノ国際博覧会                  食の国は農の国 イタリア・ミラノ紀行 写真:大塚雅貴                  五感に響く日本の食文化 - ミラノ万博日本館が伝えるもの                  里井真由美 (ミラノ日本万博日本館オフィシャルサポーター)</p>	<p>2015年                  7月                  A4版                  50頁                  年間購読料                  4,800円                  (送料込)</p>
<p>▶ 水産物の消費をめぐる動き</p> <hr/> <p>生活協同組合研究                  2015. 7                  474</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 資源保護における組織と個人 麻生幸</p> <p>▶ <b>特集 水産物の消費をめぐる動き</b></p> <p>魚離れの真相…… 馬場 治</p> <p>ファストフィッシュをどうとらえるか…… 佐野雅昭</p> <p>食品スーパーだから出来る「魚で食育」…… 堀内幹夫</p> <p>海外と日本の水産物の消費と将来</p> <p>—水産物の消費と供給—消費者の役割—…… 小松正之</p> <p>日本一の魚屋を目指す鮮魚専門チェーンストア</p> <p>—売り方次第で魚は売れる業績を伸ばし続ける角上魚類— 上妻英夫</p> <p>コラム1 京都生協の「かもめボックス」の変遷と魚食の近況についてインタビュー                  小林信之、聞き手:鈴木岳</p> <p>コラム2 魚介料理と日本酒およびブドウ酒との相性を一考する 鈴木 岳</p> <p>■ 研究と調査                  生協組合員の参加と消費行動2014調査から                  —組合員の生協観の一端をみる…… 近本聡子・宮崎達郎</p> <p>■ 海外情報                  欧州5生協の2014年度決算書(財務諸表)を読んで 藤井晴夫</p> <p>■ 時事再録                  Think Globally Act Locally 2つの宇和島物語 白水忠雄</p> <p>■ 新刊紹介                  菊澤研宗著『ビジネススクールでは教えてくれないドラッカー』 寺尾善貴</p>	<p>2015年                  7月                  80頁                  B5版</p>
<p>▶ 生協事業における環境政策とその実現</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！                  手掛ける事業はすべて黒字を実現、組合員が生協利用できる生協を目指す                  大阪いずみ市民生協●理事長 藤井克裕氏</p> <p><b>特集 生協事業における環境政策とその実現</b></p> <p>1 店舗での省エネの取り組みとフロン法改正に伴う対応                  コープこうべ●企画政策部 開発施設管理 施設管理担当課長 酒井宏氏                  担当課長 大西博之氏 担当係長 金山理恵氏</p>	<p>2015年                  7月                  B5版                  67頁                  定価850円</p>

<p><b>生協運営資料</b> 2015. 7 284 日本生活協同組合連合</p>	<p>2 環境に優しい地域づくりに向けた積極的な再生可能エネルギーの活用 ならコープ●理事会 副理事長 中野素子氏 CSR組織広報部 マネジャー兼環境エネルギー担当マネジャー 土井明氏</p> <p>3 商品購入の場面で選択肢と考えるきっかけを提示することが環境配慮商品の役割 (公財)日本環境協会●常務理事 エコマーク事務局事務局長 宇野治氏 日本生協連●組織推進本部 環境事業推進部 部長(取材当時)二村睦子</p> <p>●惣菜強化による店舗活性化を学ぶ 第2回 激変するスーパーマーケット業界と惣菜部門・中食のこれから 全国農業協同組合連合会●生活リテール部 星良雄氏</p> <p>●宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第8回 宅配現場の声を生かした長期教育計画 コープあいち●共同購入事業本部執行役員 須々木啓氏 豊橋センター センター長 統括部長 西尾俊範氏 小牧センター センター長 統括部長 谷風豊氏</p>	
<p>▶「厚生連医薬品 全国共同購入委員会」</p> <p><b>文化連情報</b> 2015. 7 448 日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (18) 「おらが農協」を基本に <b>厚生連医療材料全国共同購入委員会の活動と 整形外科材料における課題と実践</b> 山崎知則</p> <p>二木学長の医療時評 (132) 伊藤幸夫 「地域医療構想策定ガイドライン」と問題文書を複眼的に読む 二木 立 第18回厚生連医療経営を考える研究会報告 西出健史 医療介護問題を読み解く (1) 診療報酬改定 池上直己 機能分化・連携への模索と挑戦 -9県13病院を訪問して 東公敏 目的は地域の人が幸せに暮らせるということ 土井章弘</p> <p>連載 農村医学運動は世直し運動! ~私の歩んできた道(4) 小山和作 「右のポケットにや夢がある、左のポケットにやチュウインガム」 伊勢原協同病院の病院給食 (6) 石井洋子 地場野菜料理教室 川のち育む農業体験学習の可能性 (4) 体験者の声 川妻干将 野の風● 一人では生きていけない・・・感謝の心で・・・ 北川かほり 地域産業との連携による再生可能エネルギーの新展開 (2) 地域産業との連携が重要なバイオマス発電 大平佳男 -福島市の醸造業の事例から 池上知恵子 ココ・ファーム・ワイナリー 働くいのちに寄り添って デンマーク&amp;世界の地域居住 (74) 松岡洋子 入院させない! イギリスの「アウト・オブ・ホスピタル・チーム」 ゲーテンターク、ドイツ (X) 日本になくてドイツにある(あった)もの-徴兵制、社会奉仕、協会税 鵜殿博喜</p> <p>オスペダーレ・マッジョーレ・ボローニャ (1) 小磯明 118番救急オペレーションセンター 新刊紹介 「ご飯が食べられなくなったらどうしますか？」 線路は続く (88) 日本一短い芝山鉄道 西出健史 最近みた映画 海街diary 菅原育子</p>	<p>2015年 7月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

# 企画案内

## 医療・介護大運動の前進を～安倍暴走政権ストップ

### 全国1000人学習大集会

日時：8月30日(日)午後1時30分～4時45分

場所：愛知「労働会館」ホール (JR・名鉄 金山駅東口より 徒歩12分)

主催：中央社会保障推進協議会／全国労働組合総連合／全日本民主医療機関連合会

入場無料 どなたでも参加できます

安倍政権は、第189国会において、憲法と民主主義を踏みにじり、戦争法の強行をねらい、審議不十分のまま医療保険制度改革関連法を強行しました。引き続き、今後5年間の社会保障費の自然増を抑制し、医療・介護・年金・障害福祉など各分野の新たな削減計画を提案しています。法律の国会審議中にもかかわらず削減策の検討をすすめるなど、まさに「だまし討ち」のようなやり方で、社会保障の削減を強行することは断じて許せません。社会保障解体を目論む安倍政権のねらいと、医療・介護総改悪の情勢と課題について学習運動(学習と意思統一)を提起し、地域、職場からの社会保障拡充運動の構築と世論の拡大をめざします。

主な内容：■講義 ※講義(120分)は、途中休憩を入れながら3テーマに分けて進めます。

Part1「安倍医療改革と皆保険体制の解体」

講師 岡崎 祐司 氏 (佛教大学社会福祉学部教授)

Part2「皆保険体制の解体と国保の都道府県単位化」

Part3「新段階の医療費抑制策と提供体制の改変～成長戦略と医療の営利事業化」

■質疑／取り組みの交流

●連絡先 中央社保協 TEL 03-5808-5344 地元連絡先 愛知県社保協 TEL 052-889-6921



# 書籍案内

## 図説 経済の論点

柴田努+新井大輔+森原康仁 [編] 四六判並製/184頁

発行日 2014年12月22日 出版社：旬報社 定価 1,500円+税



書評：「できるかぎりわかりやすく現代経済を解説した入門書を、若い書き手で作る」というコンセプトのもとに編集・執筆された解説書です。それでいて、内容は非常に高度です。企業のグローバル展開と非正規雇用への切り替えによる生産コスト抑制のもとで、大企業は利潤を増加させてきたこと、「大企業の経営者報酬は増大し、内部留保が増えたにもかかわらず、賃金が下がるというのは、一見すると大きなパラドックス」であり、「付加価値分配の歪みと言わざるをえない」こと、金融市場は「効率的であるどころか短期的に乱高下を繰り返すきわめて不安定な市場になっている」こと等を、簡潔に明らかにします。それでいて、労働組合は「もっとも困難な状況におかれている労働者たちを組織化していない」ことも、チクリと指摘します。なによりうれしいのは、その書き手に、静岡、岐阜、三重と、近隣の大学教員が多いことです。「会いに行ける経済学者」——ぜひ学習会等にも呼んであげてください。

三重大学人文学部准教授 前田定孝

2ページでご紹介しています国際協同組合同盟(ICA)の「協同組合の10年に向けた計画(ブループリント)」をお読みになりたい方は、事務局までご連絡ください。

2015年7月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

## 研究センター 8月の活動予定

1日(土) 共同購入事業マイスターコース第2回

6日(木) 協同の未来塾企画委員会

10日(月) 21日(金) 生協の(未来の)あり方研究会

12日(水) 理事ゼミナール世話人会

常任理事会

20日(木) 岐阜地域懇談会第9回「岐阜のつどい」石徹白見学

21日(金) 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同世話人会

24日(月) 研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会

尾張地域懇談会世話人会

27日(木) 協同の未来塾第2回

28日(金) 常任理事会